

# みちのりグループの交通空白解消の取り組み

---

---



2025年3月19日

みちのりホールディングス 浅見知秀

日本共創プラットフォーム  
(JPiX)

100%出資

みちのり  
ホールディングス

27人

100%出資

みちのりグループ

岩手県北バス  
グループ

福島交通  
グループ

会津バス  
グループ

関東自動車  
グループ

茨城交通  
グループ

湘南  
モノレール

86%出資  
佐渡汽船  
グループ

みちのり  
トラベル  
ジャパン

49%出資  
Saigon.PT

- ・岩手県北自動車
- ・東日本交通
- ・みちのりトラベル東北
- ・みちのりホテルズ
- ・宮古エコカーシェアリング

- ・福島交通
- ・福交整備
- ・福島交通観光
- ・フクコーアド
- ・福交保険サービス

- ・会津乗合自動車
- ・会津トラベルサービス
- ・ATS保険サービス
- ・あいづスタッフ
- ・丸峰観光ホテル

- ・関東自動車
- ・関東自動車整備
- ・関東ツアーサービス
- ・やしお観光バス
- ・那須交通

- ・茨城交通
- ・運行マネジメントサービス
- ・なの花交通バス
- ・ひたちなか海浜鉄道 (49%出資)

- ・佐渡汽船
- ・佐渡汽船運輸
- ・万代島ビルテクノ
- ・両津南埠頭ビル
- ・佐渡西三川ゴールドパーク
- ・小木観光
- ・佐渡歴史伝説館
- ・SADOニッ亀ビューホテル

計

従業員 900人 891人 506人 928人 1,245人 104人 977人 5人 110人 5,693人

バス 452台 522台 209台 565台 660台 15台 2,423台

その他 カーシェア 11台 鉄道 6編成14両  
トラック 4台 タクシー 68台 ロープウェイ 2基 タクシー/ハイヤー 85台  
レンタカー 213台 モノレール 7編成21両 カーフェリー3隻  
ジェットフォイル3隻 貨物船1隻 トラック236台  
レンタカー108台 バギー70台  
ピックアップトラック5台

# みちのりグループの拠点

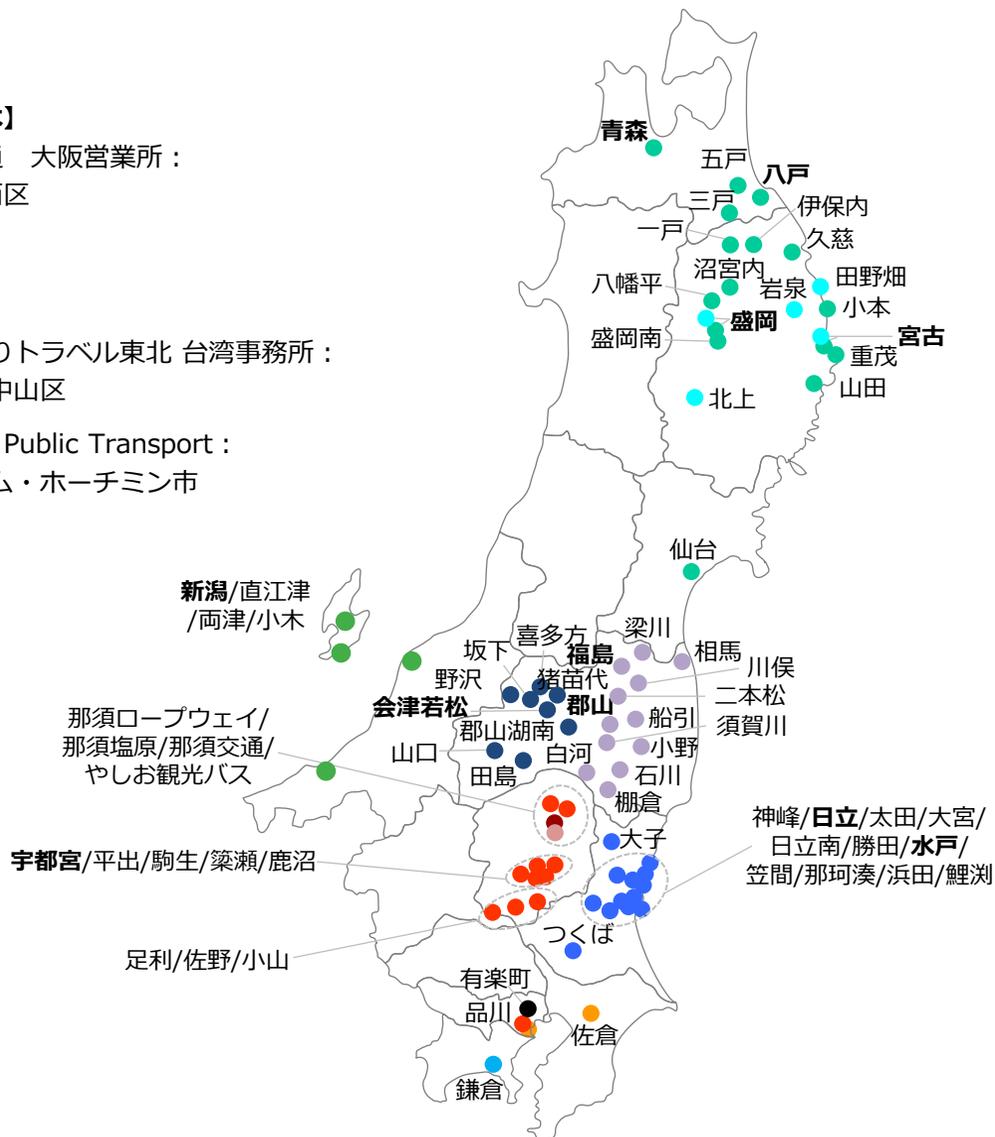
## 【西日本】

福島交通 大阪営業所：  
大阪市西区

## 【海外】

みちのりトラベル東北 台湾事務所：  
台北市中山区

Saigon Public Transport：  
ベトナム・ホーチミン市

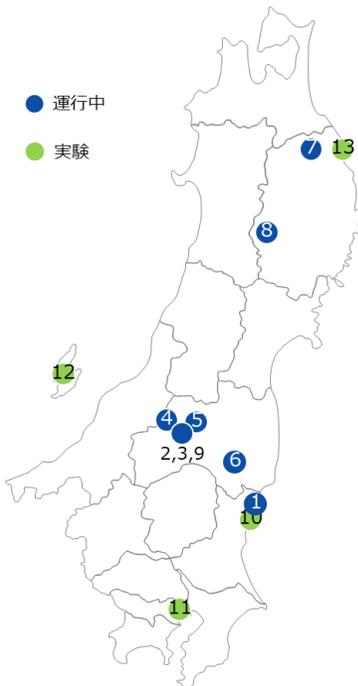
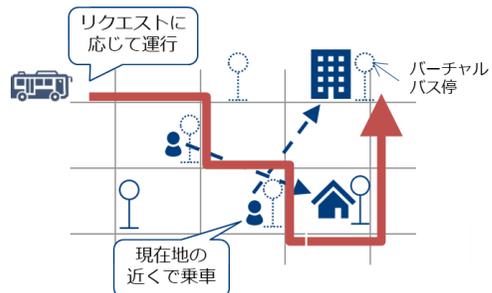


- : 岩手県北自動車
- : 東日本交通
- : 福島交通
- : 会津乗合自動車
- : 関東自動車
- : やしお観光バス
- : 那須交通
- : 茨城交通
- : なの花交通バス
- : 湘南モノレール
- : 佐渡汽船
- : みちのりトラベルジャパン

# みちのりグループのソリューション

## AIオンデマンド交通

リアルタイム  
双方向コミュニケーション  
どこでもバス停



	運行エリア	人口
①	高萩市	2.8万人
②	会津若松市	11.7万人
③	会津若松市	11.7万人
④	西会津町	0.6万人
⑤	磐梯町	0.3万人
⑥	石川町	1.5万人
⑦	九戸村	0.5万人
⑧	西和賀町	0.5万人
⑨	会津若松市	11.7万人
⑩	日立市	17.5万人
⑪	中央区・江東区	16.9万人
⑫	佐渡市	5.1万人
⑬	久慈市	3.2万人



## ICカード・キャッシュレス決済



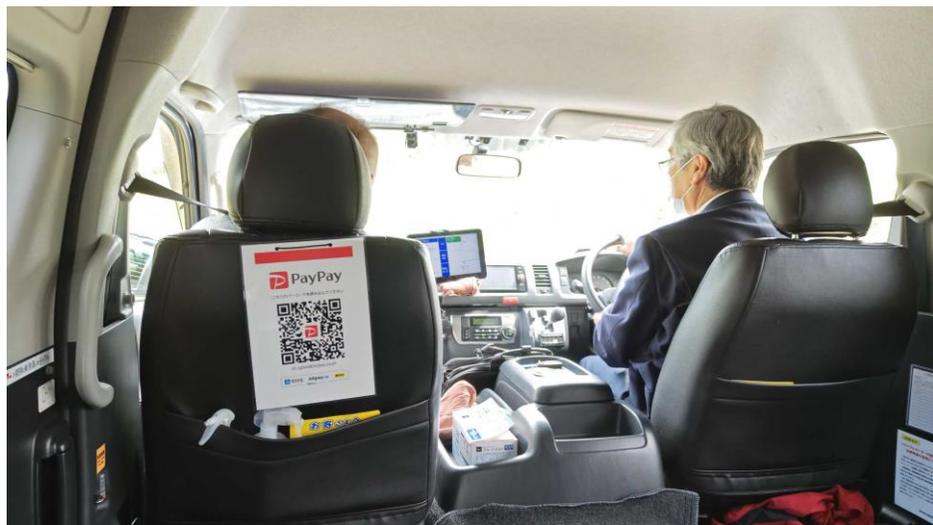
## 自動運転



## 電気バス・バスEMS



# 地域に根差した運行会社



ドライバー手配



車両選び・調達



地域の方とのワークショップ



高校での授業



交通計画  
路線設計



AIオンデマンド交通  
システム



EV・車両



ICカード・  
キャッシュレス・バスロケ



自動運転



広告・PR

専門領域  
の例



- ・地域における**移動需要の創出や集約**と、**最適な移動サービスの設計**を一体的に提案
- ・関係事業者にその**実施を促進**
- ・必要となる**移動需要の調査**や**新たな移動需要の企画**
- ・移動サービスの効率化に共通に必要な**システムやアプリケーション等の整備**

## 背景：運転士不足の深刻化

### 輸送効率とは？

- ・1人の運転手が1時間で何人運べるか  
限られた人員で最大限の利用者を運ぶための重要指標

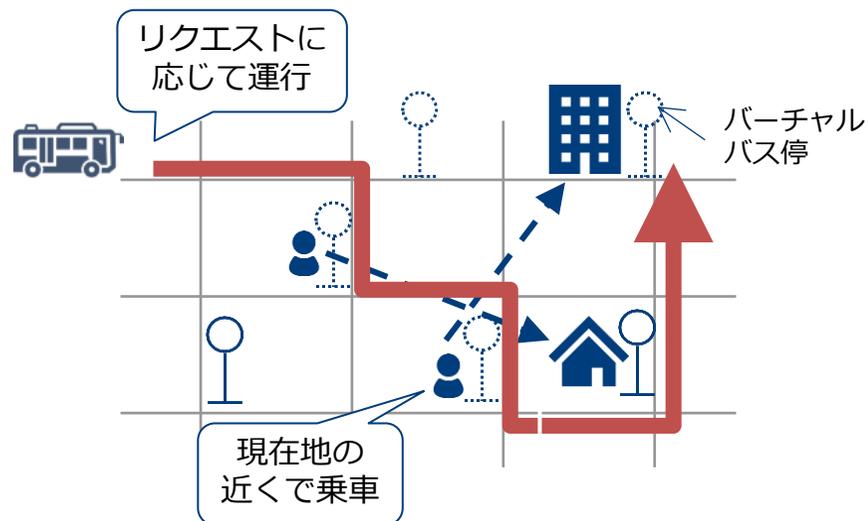
	特徴	輸送効率（参考値）
路線バス	ルート・ダイヤ固定 まとめて運ぶのに適する	数十人
AIオンデマンド交通	ルート・時間の自由度が高い 個別輸送に適する	多くて3～5人 (1～2人、1人未満の事例も)

それぞれの強みを活かした役割分担と連携が必要

## リアルタイム

## 双方向コミュニケーション

## どこでもバス停



POINT 

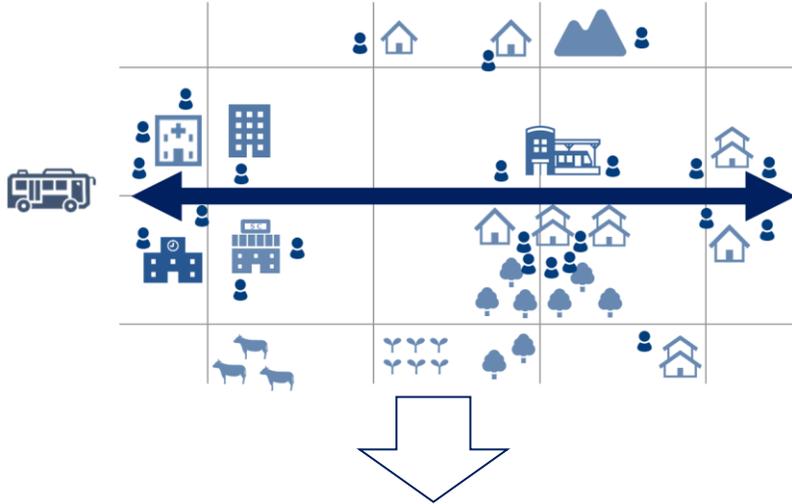
路線バスよりも1台あたりの輸送人員増

- 仮想のバス停を多数設定する
- バス停まで利用者に歩いてもらうことで、ドアtoドアよりも効率的な経路になり、相乗り率が高まる。
- 既存の路線バスと競合しないように運行時間やエリアを調整する。  
地域全体の移動利便性を向上させる。

# 競争ではなく、共創

## 公共交通ネットワークの最適化が重要

採算がギリギリ黒字の路線バス



昼間はAIオンデマンド交通で運行

昼間帯



AIオンデマンド交通を重複して導入

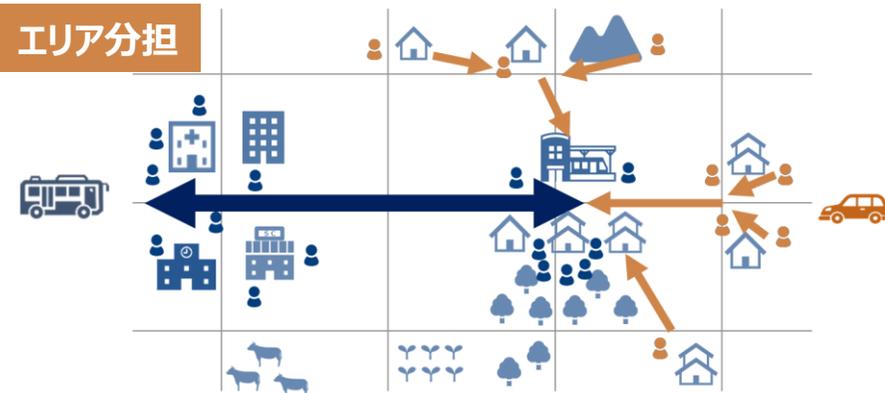
重複



路線バス撤退、共倒れ・自治体負担増加の可能性

路線再編、エリア分担してAIオンデマンド交通を運行

エリア分担



# AIオンデマンド交通 導入のポイント

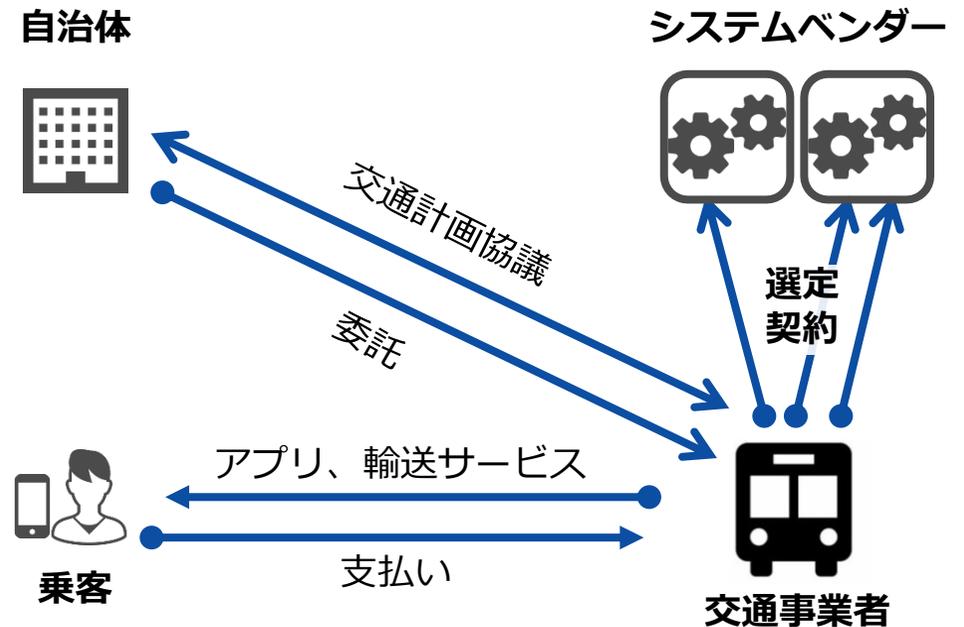
- ✓ 交通ネットワーク最適化とセット
- ✓ 自治体・地域と協働（サービス設計、利用促進）
- ✓ 特定のベンダーに依存しない

地域の事情にあわせて最適なベンダーを選択

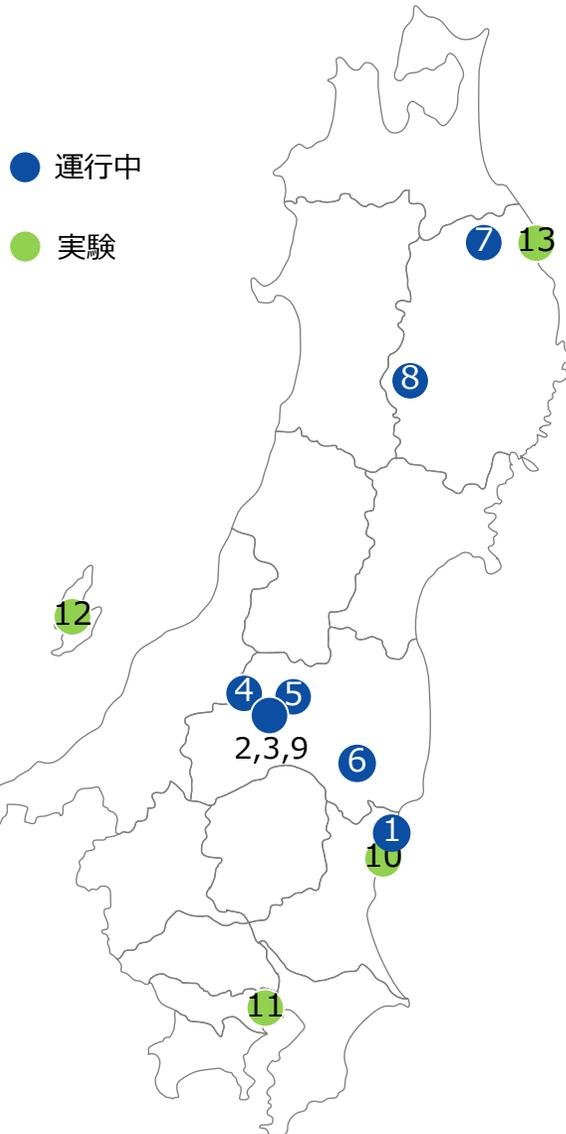
## POINT

計画から運行までワンストップで支援

- ・交通空白を解消したい
- ・費用を抑えたい
- ・アプリやLINEで予約可にしたい
- ・乗る人を増やしたい
- ・高齢者に使いやすくしたい
- ・マイカーからの転換を促したい



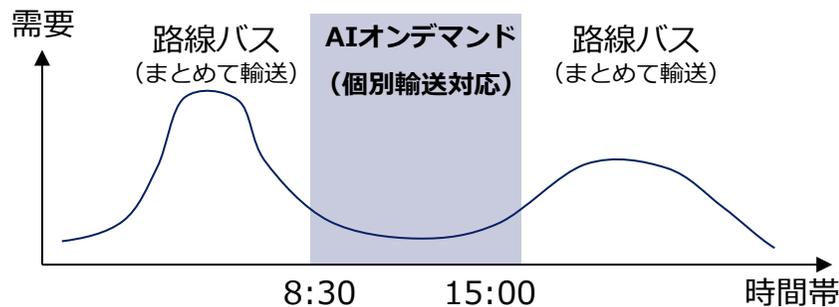
# AIオンデマンド交通 みちのりグループ導入事例



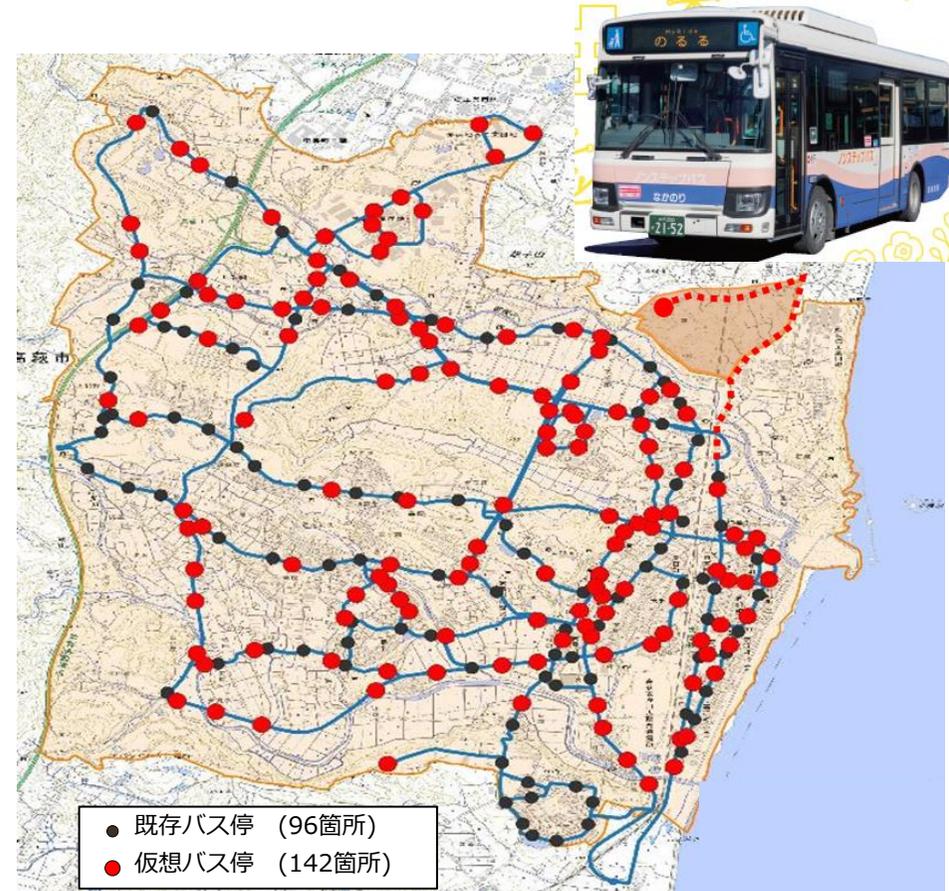
	運行エリア	都市人口	運行台数	車両	運行期間
①	高萩市	2.8万人	4台	中型バス	2021年7月～
②	会津若松市	11.7万人	3台	ワンボックス	2023年12月～
③	会津若松市	11.7万人	朝4台 夕3台	中型バス	2020年10月～
④	西会津町	0.6万人	6台	ワンボックス	2021年11月～
⑤	磐梯町	0.3万人	4台	セダン	2023年10月～
⑥	石川町	1.5万人	1台	ワンボックス	2022年12月～
⑦	九戸村	0.5万人	2台	ワンボックス	2024年5月～
⑧	西和賀町	0.5万人	2台	マイクロバス	2025年3月～
⑨	会津若松市	11.7万人	1台	ワンボックス	2021年 2～4月(実証) 2021年 10～2月(実証) 2022年 2～5月(実証) 2023年 7～11月(実証)
⑩	日立市	17.5万人	2台	セダン・ワンボックス	2021年 6～7月(実証)
⑪	中央区・江東区	16.9万人	2台	マイクロバス	2021年12～2月(実証)
⑫	佐渡市	5.1万人	2台	セダン・ワンボックス	2022年11～12月(実証)
⑬	久慈市	3.2万人	2台	ワンボックス	2024年12～1月(実証)

# ①高萩市 MyRideのるる

<b>エリア</b>	26,161人（2021年4月現在） 約26.6km <sup>2</sup>
<b>運行時間</b>	平日 7:30～19:00 土日祝 9:00～15:00
<b>使用車両</b>	平日 バス4台（朝夕は1台） 土日祝 バス2台
<b>特徴</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 朝夕は路線バス運行</li> <li>✓ 同じ車両で日中AIオンデマンド交通に切替え</li> <li>✓ 2024年～ 朝夕も1台AIオンデマンド運行</li> <li>✓ ICカード、キャッシュレス対応</li> </ul>
<b>効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1日200人を超える日もある</li> <li>✓ 利用者のうち <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車からの転換 <b>約4割</b></li> <li>・外出の機会が増えた等 <b>約4割</b></li> </ul> </li> </ul> <p><small>※令和6年度 共創・MaaS実証プロジェクトによる速報値 修正の可能性がある</small></p>

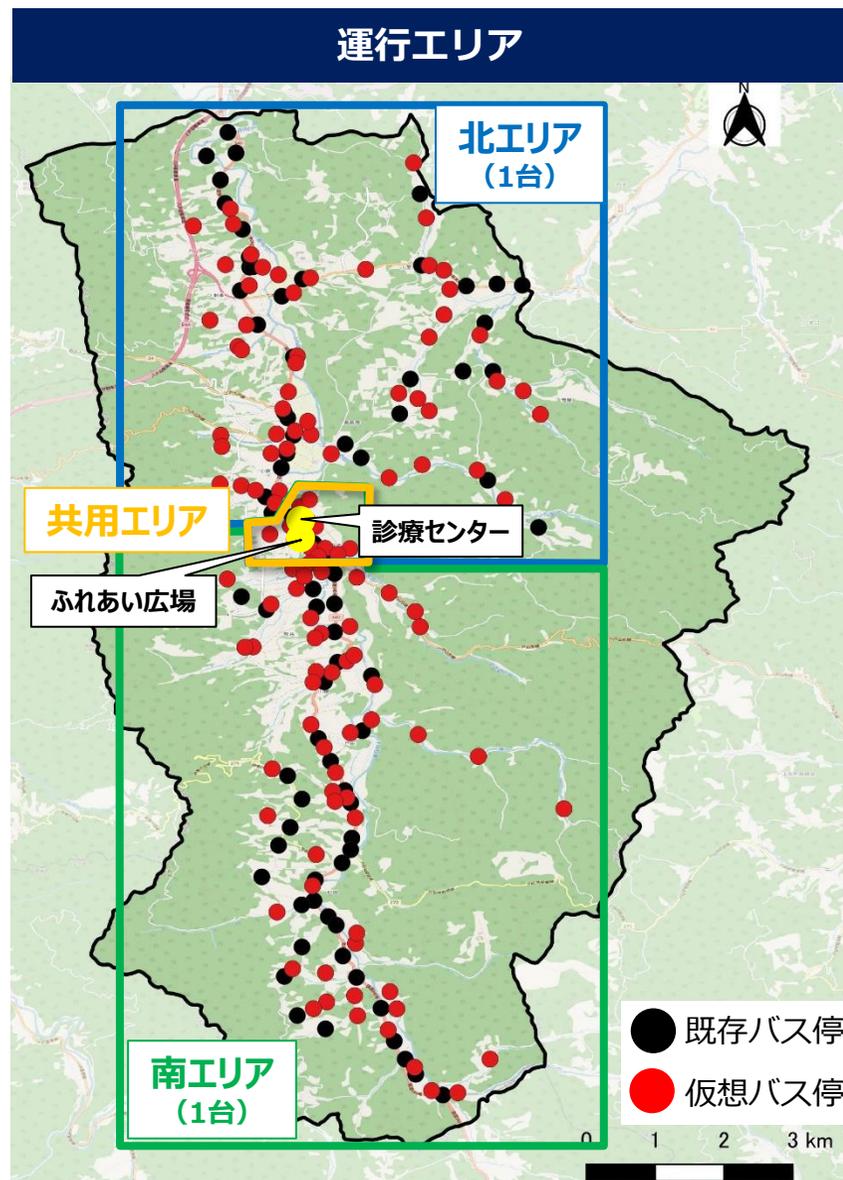


## AIオンデマンドバス導入前後の利用者数の比較



## ⑦九戸村 まさざねGO

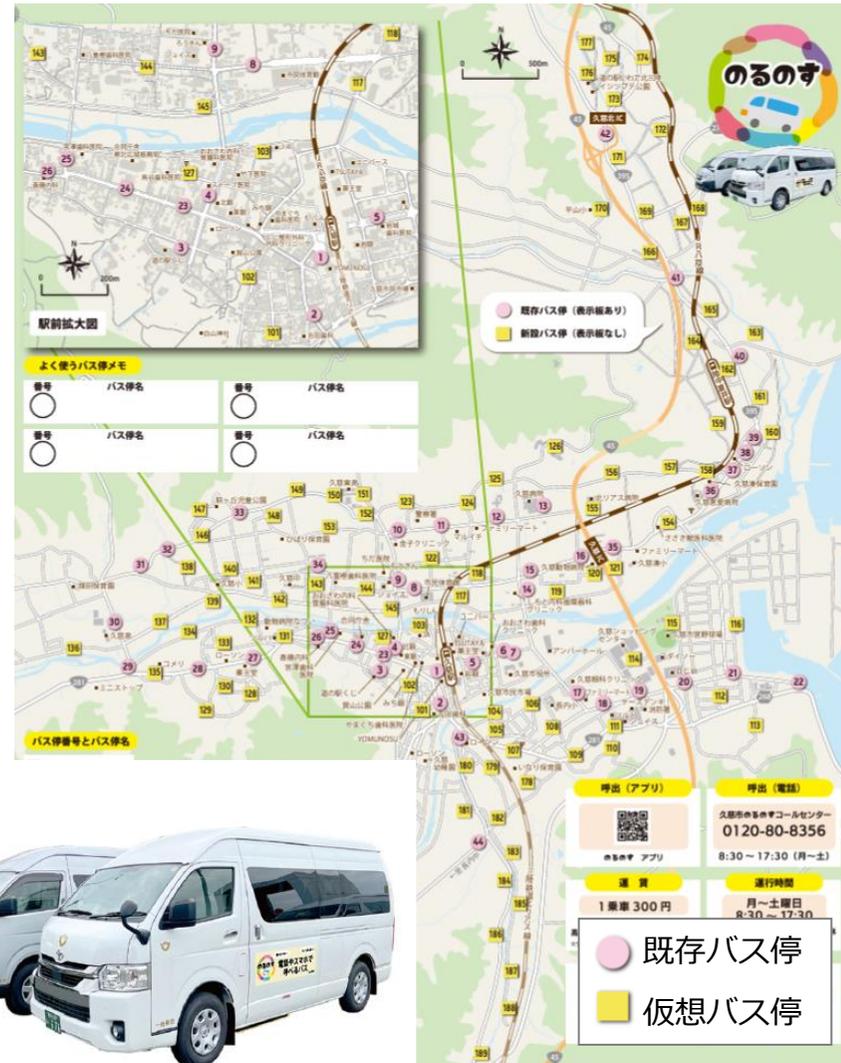
エリア	5,186人(2024年4月現在) 約78km <sup>2</sup> (山間部除く)
運行時間	平日 9:00~16:00
使用車両	2台 (ワンボックス 乗車定員12名)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 日中の村循環バスをAIオンデマンド交通に切替え</li> <li>✓ 九戸村民の小学生・75歳以上は無料</li> <li>✓ キャッシュレス対応</li> <li>✓ エリア分割(南北エリア)して運行効率化</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1日の利用者数1.3倍 ※導入前2024年4月路線バスと2025年2月を比較</li> <li>✓ 水曜のみ運行路線沿線の方が 月~金で公共交通サービス利用可能に</li> <li>✓ 役場職員が担っていた温浴施設送迎を代替</li> </ul>



## ⑫久慈市 のるのす

エリア	約14,000人（2023年10月現在）約11.9km <sup>2</sup>
運行時間	月～土 8:30～17:30 実証期間：2か月（R6/12/2～R7/1/31）
使用車両	2台（ワンボックス 乗車定員12名）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓コミュニティバスの利用が不便な市街地エリアに新規導入</li> <li>✓ICカード対応</li> <li>✓高齢者の利用率が高く、アプリ利用率も高い</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓利用者 1日平均34人 最大50人の日も</li> <li>✓仮想バス停の利用率77%</li> <li>✓利用者の行動変容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車利用<b>18%減少</b></li> <li>・自家用車送迎移動<b>25%減少</b></li> <li>・外出回数<b>36%増加</b></li> <li>・80歳以上の外出回数<b>約3倍に増加</b></li> </ul> </li> </ul> <p>※令和6年度 共創・MaaS実証プロジェクトによる速報値 修正の可能性がある</p>

### 運行エリア



既存バス停 (表示線あり)

仮想バス停 (表示線なし)

よく使うバス停メモ

番号	バス停名	番号	バス停名
○		○	
○		○	

バス停番号とバス停名

呼出 (アプリ)

呼出 (電話)

久慈市MaaSコールセンター  
0120-80-8356

8:30～17:30 (月～土)

運賃

1乗車 300円

運行時間

月～土曜日  
8:30～17:30

既存バス停

仮想バス停



# 宮古市 EVバス導入（2024年11月～）

市が出資するエネルギー事業から受け取る収益を公共交通の維持など、地域課題を解決するための財源とする仕組みである  
**宮古市版シュタットベルケを活用**

**宮古市内の太陽光発電を含んだ電力を利用した電気バス**を運行する。

**既存のバス路線にEVバスを導入し、周知・広報（モビリティ・マネジメント）を実施**

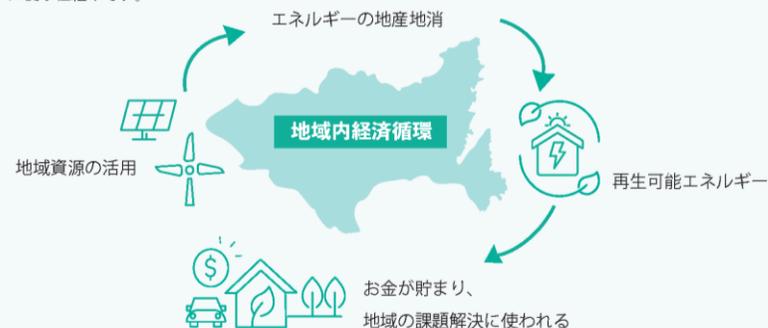
- ・外出回数3%増加、自動車利用1%減少
- ・運行期間11～12月利用者数の減少率が縮小（10月比）



※令和6年度 共創・MaaS実証プロジェクト  
 による速報値、修正の可能性がある

## 「宮古市版シュタットベルケ」とは

宮古市が太陽光発電などの再生可能エネルギーに関わる活動に積極的に参加することで、その活動から得られるお金（利益）の一部を、バスなどの公共交通機関の運行や、子育て支援など、地域の課題を解決するために使う仕組みです。



# モビリティ・マネジメント (MM)

## 高萩

### 高校でのワークショップ



### 漫画を使ったPRチラシ

## 久慈

### サービスエリア全世帯にパンフレット配布

### わかりやすい キャッチフレーズ

## 九戸

### 利用ガイド (MM行動プラン法活用) を全世帯に配布

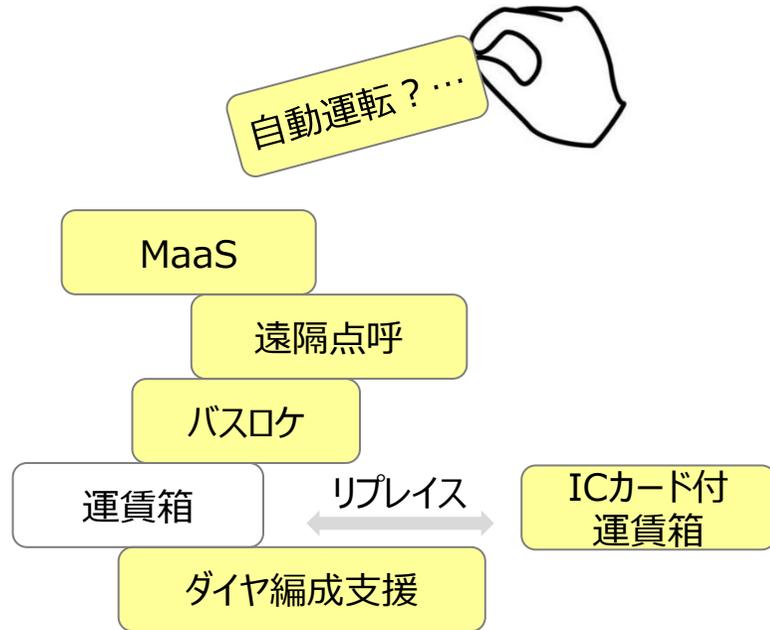
運行日	平日 (7の村×日は土日祝運行)
運行時間	9:00-10:30, 11:30-13:30, 14:00-15:00, 15:30-16:00
料金	一般 100円 / 高齢者 無料
申込先	九戸村 村づくり推進課 43-3272

## 宮古

### 宮古市全世帯にリーフレットを配布

# バス業務標準化

◆ 業務の追加や変更の度、つぎはぎでシステム(ブロック)を積み上げている状態

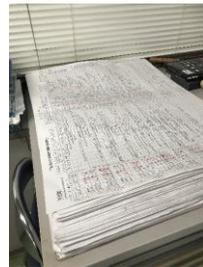


業務プロセスの見直し  
バス業務標準化  
+  
システム  
アーキテクチャの設計



**利便性／生産性の向上**

2025年度の国土交通省「バス業務標準化プロジェクト」(地域交通DXプロジェクト/空白解消パイロットプロジェクト)と連携し、全国に展開可能な汎用的な標準化を目指す。



➤ **みちのりグループは、自治体のパートナーとして持続可能な共創事業を推進します。**